

教員名	鷹野 光行 (TAKANO Mitsuyuki)
所 属	文教育学部人間社会科学科教育科学講座
学 位	文学修士 (1974年 東京大学)
職 名	教授
URL/E-mail	mtakano@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

火山噴火罹災遺跡 / 学芸員養成 / 遺跡活用

◆研究内容

2004年度より文部科学省科学研究費(特定領域研究)を得て鹿児島県指宿市周辺にフィールドを求め、火山噴火による罹災遺跡の調査を行っている。これは1985年より参加していたイタリア共和国におけるローマ時代別荘遺跡の調査とつながりを持ち、この調査を通じて、発掘調査された遺跡がどのように活用されていくのかを見てきた。これは日本の遺跡博物館の動向ともかかわりを持つものである。今後も自ら手がけた遺跡の保存活用に関わる諸問題を博物館学的見地からも研究していく。

発掘調査を行った指宿市敷領遺跡は、874(貞観16)年3月25日の開聞岳の噴火による火山灰により埋没した平安時代の水田の遺跡である。発掘実施前に東京工業大学と連携して地中のレーダー探査を行って遺構の存在を確認し、それに基づいて発掘を行った。調査期間中台風に襲われ手水没してしまったが、おかげで水田面の稲の株跡と見られる窪みを多数検出し、この水田からの収穫量を推定することができた。



◆教育内容

学芸員養成のための諸問題については、いかによりカリキュラムを作成していくかが問題である。幸いお茶の水女子大学の学芸員養成課程の評価は比較的高いところにあるようで、今後もこの水準は維持していきたい。今のところ、良好な最新の本質的な博物館に関する課題を担当する博物館学概論、博物館活動特殊講義(博物館法施行規則における博物館経営論、博物館情報論に相当)、博物館資料特殊講義(同 博物館資料論)、博物館実習を通じて学芸員資格取得希望者に対して伝えていくことが課題である。学芸員資格取得のための選択科目でもある考古学通論においては、半期を非常勤講師に委ねたが、考古学の定義、研究資料、研究法などについて、縄文時代を主な題材として講義した。大学院修士課程では、博物館の活動の評価を試みるために、博物館の年報・館報により活動を分析し、博物館の教育機能の確認を行った。

